

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名：一般国道253号 <small>じょうえつさんわ</small> 上越三和道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局
起終点：自：新潟県上越市 <small>じょうえつてら</small> 越市寺 至：新潟県上越市 <small>じょうえつさんわほんごう</small> 三和区本郷	延長：7.0km	
事業概要：国道253号上越三和道路は、広域的なネットワークの強化、第三次医療施設へのアクセス向上、冬期を含めた道路交通の安全性・信頼性の確保、などを目的とした延長7.0kmのバイパス事業である。		
H11年度都市計画決定 H13年度事業化（権限代行） H13年度用地着手 H14年度工事着手		
全体事業費：約780億円 事業進捗率：44% 供用済延長：3.0km（暫定2車線） <small>（令和3年3月末時点）</small>		
計画交通量：11,000～25,800台／日		
費用対効果分析結果	B/C： （事業全体） 0.9 （残事業） 1.6	総費用： <small>（残事業）/（事業全体）</small> 348/772億円 （事業費：344/764億円） 維持管理費：3.8/7.6億円
総便益： <small>（残事業）/（事業全体）</small> 571/690億円 （走行時間短縮便益：423/538億円） （走行経費減少便益：129/133億円） （交通事故減少便益：18/19億円）		基準年： 令和3年度
感度分析の結果： <small>（事業全体）</small> 交通量：B/C=0.8～0.97（交通量±10%） <small>（残事業）</small> 交通量：B/C=1.5～1.7（交通量±10%） 事業費：B/C=0.9～0.9（事業費±10%） 事業費：B/C=1.5～1.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=0.9～0.9（事業期間±20%） 事業期間：B/C=1.6～1.7（事業期間±20%）		
事業の効果等		
①冬期間におけるスムーズな交通の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・現国道253号は車道幅員が5.5m、路肩を含め6.5mの区間が多く存在する。大型車がすれ違う場合、車道幅員は最低5.5m程度必要となり、冬期堆雪時幅員に余裕がほとんどない。 ・上越三和道路の整備により、大型車がバイパスに転換することで、冬期の歩行者との接触や、路肩狭小区間におけるすれ違い困難などの問題のある現国道253号を回避でき、冬期間の安全性・信頼性が向上する。 ②主要な観光地へのアクセス向上 <ul style="list-style-type: none"> ・上越地域は豊富な観光資源に恵まれた地域であり、上越三和道路周辺には観光施設が多く点在している。 ・上越魚沼地域振興快速道路の一部を担う上越三和道路の開通により上越市と十日町市方面とのアクセス性が向上し、市内観光施設への更なる観光客増加や域外との交流促進・地域の活性化に寄与する。 ③第三次救急医療施設（新潟県立中央病院）へのアクセス向上 <ul style="list-style-type: none"> ・旧東頸城地域の浦川原区・安塚区・大島区・牧区では、救急医療患者搬送先の98%が上越市街地の病院である。 ・上越三和道路の整備により、旧東頸城地域から上越地方唯一の第三次救急医療施設である新潟県立中央病院への所要時間が短縮されるなど、迅速な救急医療患者の搬送に貢献する。 		
関係する地方公共団体等の意見		
地域から頂いた主な意見 上越市から、整備促進の要望を頂いており、特に上越三和道路並びに三和安塚道路の早期開通に向けた整備促進及び未整備区間（安塚IC以东）の早期着工について要望を頂いている。		
知事の意見 県民の安全・安心を確保し、活力のある新潟県を創るため、事業の継続を望みます。本事業は、広域的な道路ネットワークの強化や安全で快適な道路ネットワークの確保につながるとともに、観光地へのアクセス向上に寄与するなど、当県にとって重要な事業と認識しております。今後も早期完成に向けて、コスト縮減に努めつつ、着実な整備をお願いします。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

前回再評価以降、周辺に大きな社会情勢の変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業の進捗状況：用地取得率92%、事業進捗率44%（令和3年3月末時点）
- ・残事業の内容：調査設計、工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・鶴町IC～（仮称）三和IC間の暫定2車線開通に向けて整備を進め、全線4車線化は、交通状況を勘案しつつ整備時期等について検討する。

施設の構造や工法の変更等

- ・建設発生土の有効活用やコンクリート二次製品・長尺製品の活用や新技術の活用等によるコスト削減を図る。

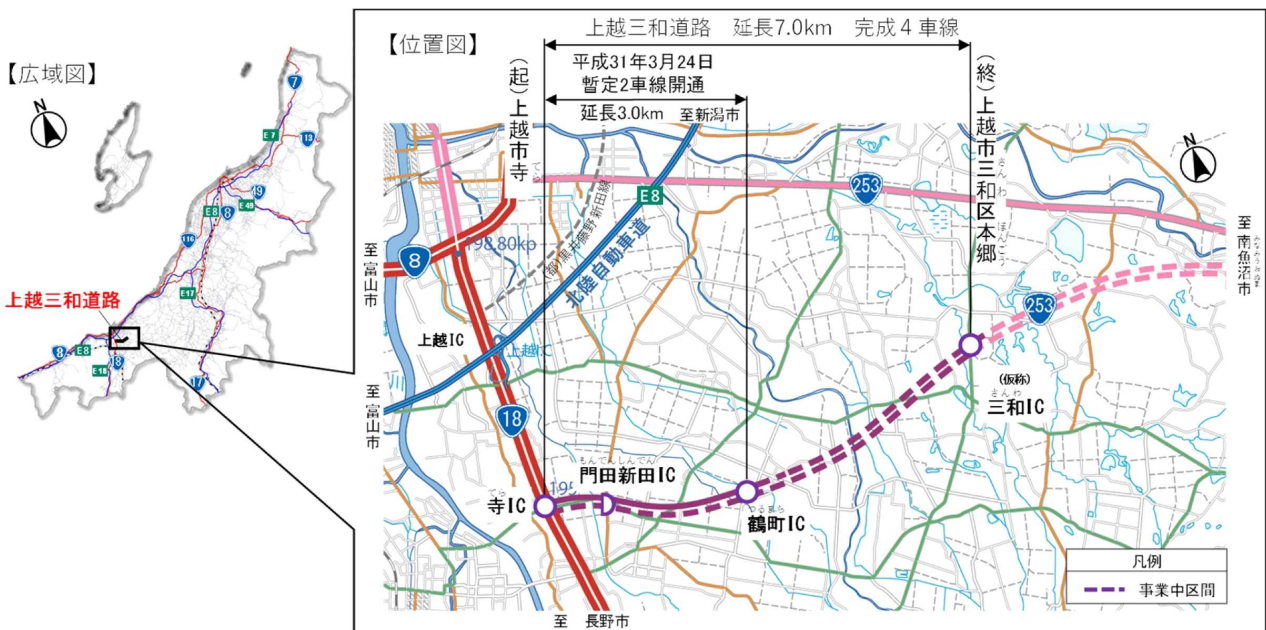
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。